

介護の切り札

建設や物流とともに人手不足の代名詞になっている介護。5月26日に政府がまとめた「首都圏白書」では、2025年度に介護人材は東京都だけでも3万5800人、全国では37万人足りなくなると推計されている。解決の手立てとしてIT（情報技術）と外国人の活用が注目されている。その現場取材した。（関連記事7面に）



SOMPOケアネクストが進める施設のIT化（注）見取り図は仮定

ITと外国人

排泄検知や記録電子化

「様子は特におかしくありません。いつも同じ午後1時ごろにトイレにお連れしますね」介護福祉士の白石陽子さんが入居者の越智米子さん（91）の腰に巻かれた「デイフリー」をみる。職員は「失禁を防ぐ。ぼうこうの中に入った尿の量を検知する機器だ。介護大手SOMPOに連れていった」（白

「様子はおかしくありません。いつも同じ午後1時ごろにトイレにお連れしますね」介護福祉士の白石陽子さんが入居者の越智米子さん（91）の腰に巻かれた「デイフリー」をみる。職員は「失禁を防ぐ。ぼうこうの中に入った尿の量を検知する機器だ。介護大手SOMPOに連れていった」（白

現場負担減らし離職防ぐ



MCSの施設で働くフィリピン人のリリスさん。MCSは今年度中に技能実習生数十人を受け入れる計画

人差が大きい。3時間1回の人もいれば、5時間6時間の人もいれば、6時間1回でよい人もいます。ぼうこうが80%ぐらい満ちた時点で尿意を催す人がいれば、もっと前の時点でトイレにいきたくなる人もいます。

対話・レクを充実

入居者の腰に巻かれた「デイフリー」は体内に超音波を送る。その跳ね返り具合から尿のたまり具合をセンサーで測る。一定量を超えると介護職員

の端末でアラームが鳴る。データを蓄積し、入居者の排尿リズムを読み取ることができる。以前は職員がトイレに「空振り」に終わった時に「間に合わずに漏らしてしまったりすることがあった。今は「デイフリー」で排尿リズムがわかるので職員の負担は軽くなった。入居者の心理的な負担も減った。SOMPOケアネクストはラウイーレ嬢ノ宮を手に始め、全国に120近くある自社の施設に「デイフリー」の導入を進めている。9月中旬までに完了する予定だ。介護の現場は「仕事がきつい」というイメージが根強い。人材を募集しても応募者が集まらず、離職率も高い。4月の業種別有効求人倍率をみると、介護は3・13倍で全業種平均の1・24倍を上回る。土木（3・1倍）や自動車運転（2・53倍）の職業よりも大きい。SOMPOケアネクストも人材確保で苦労してきた。だが、高齢者を世話をし、高年齢者を世話をすることやりがいを感じる人は多い。そうして、リリスさんを含め8人のフィリピン人がMCSは月に1回、フィリピン職員に日本語や日本の文化についてレクチャーしている。絶対数が減ることが予想されている。すでに深刻な労働力不足に直面している介護会社にとって、外国人の受け入れは有力な解決策の一つだ。

海外進出も視野

リリスさんの上司にあたる徳竹茂ホーム長は「彼女のおかげでホームの雰囲気明るくなった」と話す。11月には介護分野でも外国人を技能実習生として受け入れることが可能になる。MCSは今年度中に数十人規模で受け入れる計画だ。課題もある。自身もフィリピン人で、リリスさんたちの指導役を務めている田村ジュリエッタさんは「外国人だから」という理由で入居者とラブラルになったことはない」と前置きしたうえで「フィリピンでは、時間にルーズなことを大目にみる人が多い。だ的に運営するノウハウが、日本では、それは許されにくい。こうした文化の違いを教える必要がある」（寺井浩介）